

IUI 推薦圖書

2013. 11. 15 版

1. 中平卓馬『都市 風景 図鑑』 (Magazine Work 1964-1982)

月曜社 (2011/01)

ISBN-10 : 490147782X

ISBN-13 : 978-4901477826

「横浜の中華街や伊勢佐木町などの路地裏にひとつ足をふみいれると グロテスクな猥雑さと都市の非行がひどく目だつ そこは人間がしんそこ無節操でいられる租界である こうしたさまざまな租界をうつしだす路上にこそ横浜があった 本町のオフィス街や外人のたむろする本牧など どの通りも概してだだっ広く 気の遠くなるほど直線的にのび しかも両側の軒並みの低さがいっそう広い路面の白さを浮彫りにしている 街よりも道路の広さが優先されたことは 交通の要衝としての役割をになうにすぎなく 文化をせきとめる定点になっていない それがさいわいにも、東京のような都市性格化を妨げ 横浜をあくまでもきれいな街に しかし独自の文化を生みださない街にもしたてているのだ すべてが横浜を素通りするふうに見える だが 白日の屋さがり のっぺりとした路上に突如として鮮血がとび散り 自動車が不気味に大きくブロウ・アップされる しかしそれも日くりかえされている光景にすぎない」 (推薦：樽沼範久准教授)

2. ミッシェル・ド・セルトー『日常実践のポイエティック』 山田登世子訳

国文社 (1987/05)

ISBN-10 : 4772000992

ISBN-13 : 978-4772000994

「世界貿易センターの110階からマンハッタンを見る。[...] ニューヨークの現在は、時々刻々と、できあがったものを投げ捨てては未来に挑む行為によってつくられてゆく。モニュメントがいきなり発作的にそびえたつ、そんな場所からできている都市だ。眺める者はそこに、空中にむかって伸びてゆくふたつの宇宙を読むことができる。[...] このようなコスモスを読む恍惚には、いったいいかなる知の悦楽がむすびついているのだろうか。その恍惚感にはげしく酔いしれながら、わたしは自問する、「全体を見る」歓び、人間の織りなす数々のテキストのなかでももっとも桁外れなこのテキストの全貌をはるか上から見はるかすこの歓びは、いったいどこからきているのだろう、と。世界貿易センターの最上階にはこばれること、それは都市を支配する高みへとはこばれることだ。」 (推薦：彦江智弘准教授)

3. 平井玄『愛と憎しみの新宿』

ちくま新書 (2010/08/06)

ISBN-10 : 448065555

ISBN-13 : 978-4480065551

「真夏のマンハッタンで渋滞する車のクラクションのようなテーマ旋律を粘りのあるホーンが奏でる。これを一つの詩的激情にまで高めたのが 20 世紀である。一方で右手が熱を帯びると、深夜ラガーディア空港に向けて旋回するジェット機のなかで、地上数千フィートの上空からハーレムの裏道にともる灯りを見つめる目の動きが現れる。[...] こういう『地を這う』と同時に『天馬空を行く』演奏が、1960 年代には世界の感じ方に新たな立体性を与えてくれたのである。地上で繰り広げられるどれほど激しい抗争も、宇宙空間からみれば取るに足らない塵芥の騒めきである。ところが、この路面で逆巻く粉塵の只中に突如として見たこともない air shaft が現れる。何本も何本も天空に立ち昇っていくそれは、別の世界への通気孔だった。その入り口は、吹き荒れる疾風の中に身を置かなければ決して目に入らないのである。私はそれを見た。吹き飛ばされる石塊の一つだったから。」(推薦：彦江智弘准教授)

4. 野田努『ブラック・マシン・ミュージック』

河出書房新社 (2001/08)

ISBN-10 : 4309264948

ISBN-13 : 978-4308264943

「今日も海はぼくを欲しない。この簡潔なフレーズは、デトロイトで生まれ、住んでいる者たちにとって、当たり前でいてしかし重要な共通感覚だ。それは廃墟のなかで育った者の、ある種の詩的な感覚である。今日も海はぼくを欲しない。サン・ラ、パブリック・エナミー、デトロイト・テクノの三つの点を、“ブラック・サイエンス・フィクション” というコンセプトで結んだマーク・シンカーの画期的な評論によれば、“バック・トゥ・ネイチャーの田園趣味は本質的な反動思想” に過ぎず、チャック・D が “Welcome to the Terrodome” でラップしたように、都合よくまとめられた政治的な混合主義のなかで彼らは自らの文化的出発点を終末的な光景に見ているという。しかし例えそうだとすると、ひとは荒んだ風景のなかにすら牧歌的享楽を見いだすことができるのだろう。デトロイトの音楽を聴いているとそう思わざるを得ない。」(推薦：彦江智弘准教授)

5. 梅本洋一『映画旅日記 パリー東京』

青土社 (2006/05)

ISBN-10 : 4791762738

ISBN-13 : 978-4791762736

「今から 30 年以上も前のことだ。早稲田松竹という名画座で『フェリーニのローマ』を初めて見た。フェデリコ・フェリーニが暮らす自らの街についての素晴らしいメタフィクシ

ョン。もちろんフェリーニがローマで撮影しているのはこのフィルムばかりではないが、都市と映画の深い関係性についてぼくに初めて教えてくれたのがこのフィルムだった。そのフィルムを見終えて高田馬場の街に出てみると、その風景を、古代の息吹を伝えているローマと比較することなどもちろんできない。早稲田松竹周辺は、アーケードの商店街と商店が立ち退いた後に建築中のビル。そこは雑然としていて、ライトアップされたコロッセウムのような壮大な建築物は皆無だった。でも、ぼくは、このつまらぬ風景さえ映画になるはずだと確信した。」（推薦：彦江智弘准教授）

6. ガブリエル・タルド『模倣の法則』（1890）、池田祥英・村澤真保呂訳

河出書房新社（2007/09）

ISBN-10：430924424

ISBN-13：978-4309244242

「社会状態とは、催眠状態と同じく、夢の一形式にすぎない。[...] 強制された夢であり、行動している夢である。暗示された観念をもっているだけなのに、それを自発的な観念と信じることは催眠状態にある人の錯覚であるとともに、まさに社会的人間の錯覚でもある。

[...] 社会的存在が、かりに社会的でありながら自然的な存在でないとしたら—つまり外部の自然にたいして感覚が開かれることもなく、感受性ももたなかったとしたら、あるいは彼の属している社会とは別の社会にたいする感受性をもたなかったとしたら—彼が変化することはまったくありえないだろう。[...] このような催眠状態は多くの都市生活者に固有のものである。街の活動や喧噪、店のショーウィンドーといったものは、彼らの精神を抑制のない衝動的な興奮へと導き、催眠術を施されたのと同じ効果をもたらす。そうであれば、都会生活とは社会生活を極限まで凝縮したものではないだろうか？」（推薦：樽沼範久准教授）

7. リルケ『マルテの手記』（1910）、大山定一訳

新潮文庫（19536/12）

ISBN-10：4102175032

ISBN-13：978-4102175033

「人々は生きるためにこの都会へ集まってくるらしい。しかし、僕はむしろ、ここではみんなが死んでゆくとしたか思えないのだ。[...] 生きることが大切だ。とにかく、生きることが何より大切だ。[...] 空気の一つ一つの成分の中には確かにある恐ろしいものが潜んでいる。呼吸するたびに、それが透明な空気といっしょに吸いこまれ— [...] 体の中に沈殿し、凝固し、器官と器官の間に鋭角な幾何学的図形のようなものを作ってゆくらしい。刑場や拷問部屋や癲狂院や手術室など、あるいはまた晩秋の橋桁の下などから醸された苦痛な恐怖感、あくまでも執拗にまといつき、どこまでもしみこみ、すべての存在を嫉妬するかのよう

に、その恐ろしい現実に執着して離れない。しかし、人間は、できるだけそんなものを早く忘れてしまいたいのだ。夜の眠りは頭の中の恐怖の傷跡を静かに削り落す。がしかし、再び悪夢は眠りを追いのけて、また恐ろしい古い傷跡の線をなぞるのだ。」（推薦：樽沼範久准教授）

8. 今和次郎『考現学入門』藤森照信〔編〕

ちくま文庫（1987/01）

ISBN-10 : 4480021159

ISBN-13 : 978-4480021151

「実に東京はみごとに充実して緊張しきっていて、こここそ生きがいのある黄金の花の花園だと讃えねばなるまい。それに対して、なんと田舎者はばかだ、ばか者ばかりだ、と群衆たちの表情にも、叫び声にも耳聞きすることができる。〔…〕そういう美の殿堂は、いつまでも崩壊せずに立っているだろうか。〔…〕みごとな世界はこわれぬのだろうか。生きている美人も、いつか眠りにおちる。〔…〕私の小便のような、小さいこの小文が、どうしてこの火災の一ひらをでも消すことができると空想できようか。それは到底不可能なことだといわないまえに、私はあきらめている。ゆくところまで、みなゆく気なのらしい。〔…〕やはり讃えられるべきことなのだろうと、うなずいたほうが早いらしい。〔…〕私の目には涙が流れる。本来気が弱くて、そんな人ごみのなかでの競争に耐えられないような魂を背負わされている私には、悲しくて涙がでてくる」（「ブリキ屋の仕事」1923/1927）。（推薦：樽沼範久准教授）

9. 坂口安吾『墮落論・日本文化私観 他二十二篇』

岩波文庫（2008/09/17）

ISBN-10 : 4003118219

ISBN-13 : 978-4003118214

「私は考える必要がなかった。そこには美しいものがあるばかりで、人間がなかったからだ。実際、泥棒すらもいなかった。近頃の東京は暗いというが、戦争中は真の闇で、そのくせどんな深夜でもオイハギなどの心配はなく、暗闇の深夜を歩き、戸締なしで眠っていたのだ。戦争中の日本は嘘のような理想郷で、ただ虚しい美しさが咲きあふれていた。それは人間の真実の美しさではない。そしてもし我々が考えることを忘れるなら、これほど気楽なそして壮観な見世物はないだろう。たとえ爆弾の絶えざる恐怖があるにしても、考えることがない限り、人は常に気楽であり、ただ惚れ惚れと見とれていれば良かったのだ。私は一人の馬鹿であった。最も無邪気に戦争と遊び戯れていた。終戦後、我々はあらゆる自由を許されたが、〔…〕人間は永遠に自由では有り得ない。なぜなら人間は生きており、又、死なねば

ならず、そして人間は考えるからだ」（「墮落論」1946）。（推薦：樽沼範久准教授）

10. 須賀敦子『時のかけらたち』

青土社（1998/06）

ISBN-10：4791756460

ISBN-13：978-4791756469

「私はヴェネツィアのそんな暗い部分にすこしずつ惹かれるようになっていった。[...] そこで生涯を終えた人たちの悲しみのなかにすこしでも分け入ることができたとすれば、それは、ある十二月の夜、ゆるやかに流れるジュデッカ運河をへだてた真向いに、皓々と人工の照明をほどこされて闇を背に勝ちほこっていた、あの石の虚構を極限にまで押しすすめたような、レドントーレ教会のファサードに気づいたときだったかもしれない。これを設計した建築家パラディオは、もしかしたら、完璧なかたち以外に、人間の悲しみをいやすものは存在しないと信じていたのではなかったか。しかし、同時に、[...] 当時パラディオもふくめたこの島の知識人たちにもてはやされたユートピアの思想さえ、虚構を守ってくれるはずの石を海底でひそかに侵蝕しつづける水のちからには、いつか敗北する運命にあるという意識が、どこかで彼らを脅かしていたからではなかったか。」（推薦：樽沼範久准教授）

11. アレクサンドラ・ティン『ビギニングスールイス・カーンの人と建築』（1984）、香山寿夫・小林克弘訳

丸善（1986/07）

ISBN-10：462103104X

ISBN-13：978-4621031049

カーン：「森は都市を欲し、都市は森を欲している。緑の世界とは、単にあなたが花が好きだとか、木が好きだとか言うことではない。われわれの経験の奥底で、われわれはそうした植物を寄生させている。われわれが深く尊敬し、われわれの一部となっているような、何かがあるのだ。われわれは、いずれにせよ都市から緑を追放することはできない。[...] 同様のことを拡張して、噴水を、単なるデコレーションではなく、何か都市に不可欠のもの—何かあなたの身近になければならぬもの—と考えることができる。水を支配すること、たとえばローマ人が山から水を引き噴水の形において行ったように、は奥深い所であなたの一部であるような何物かを、あなたが支配するためのやり方である。動いている水の流れを見る時、あなたは、真実、生きていることの何たるかを見たかの感を持つ。[...] あなた、あなた自身がその記録を何らかの形であなたの中に持っているからだ。」（推薦：樽沼範久准教授）

12. グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』（1972）、佐藤良明訳

新思索社（2000/02）

ISBN-10 : 4783511756

ISBN-13 : 978-47893511755

「現在われわれの文明に支配的な観念が、有害な形をとって現れたのが産業革命期だということ。それらを要約すると、[...] c-個人が（あるいは個々の企業や国家が）重要であるとする心 d-環境を一方的に制御することが可能であり、またそれを目指すべきだとする思い e-われわれは限りなき“フロンティア”を進んでいるという楽天主義 f-経済がすべてを決定するという“常識” g-テクノロジーが解決してくれるという無責任」（「環境問題の根にあるもの」）。「生命システムにおける決定機構は『重複的』であるとともに『間接的』にはたらく [...]。生物界で、なんらかの必要が直接的に満たされるケースというのはごく稀にしか見当たらないのだ。[...] これに対して、人間社会の設計者やエンジニアは、特定の必要をきわめて直接的なやり方で満たそうとする。彼らの作り出すものの生存性が低い原因は、そこにあるのだろう」（「都市文明のエコロジーと柔軟性」）。（推薦：樽沼範久准教授）

13. ロベルト・ユンク『原子力帝国』（1977）、山口祐弘訳

現代教養文庫（1989/03）

ISBN-10 : 4390112813

ISBN-13 : 978-4390112819

「ラ・アークの批判的な労働組合のおかげで、私は、これまでにない恐ろしい労働環境を垣間見ることができた。ここでは、健康ばかりか、言葉や自己決定の権利も奪われている。[...] 彼らは、数年働いたあと、ポタ山の『鉱滓』のように捨てられるのではないか [...] 原爆の後遺症で苦しむ広島や長崎の被爆者のために、なにもしようとならないアメリカ人のように、ラ・アークの雇い主は、[...] 長期的な責任を負うためのなんの準備もしていない。」
「私たちには、こんな電気は要りません。すべてパリへ送られるのです。“光の都”の活力がこれを求めるのです [...] 施設につぎつぎと欠陥が生じ、閉鎖壁で困むということは避けられないと思います。[...] この土地はしだいに原子力荒野になっていくだろうと思います。[...] まるでペストの巣のように、何十年も何百年も監視されねばならないのです。監視するわれわれの子孫は [...] 私たちを憎むにちがいないのです」。（推薦：樽沼範久准教授）

14. ミシェル・フーコー『監獄の誕生—監視と処罰』（1975）、田村俣訳

新潮社（1977/09）

ISBN-10 : 4105067036

ISBN-13 : 978-4105067038

「ペストに襲われた都市と一望監視の施設、両者の差異は重大である。一世紀半の隔たりをおいてではあるが、その差異が、規律・訓練の計画の変貌を明らかにする。前者には或る例外的状況が存在する。つまり異常な悪疫に抗して権力が立ち上がるわけで、権力はいたるところに自らを現存させ可視的にして、新しい歯車装置を考案する。権力は仕切り、固定し、基板割りをおこなう。反都市でもあり完璧な都市でも或る状態を、一定期間つくりあげる。 […] 〈一望監視システム〉は一般化が可能な一つの作用モデルとして理解されなければならない。人間の日常と権力との諸関係を規定する一つの方法として、である。

「 […] この施設は一種の夢幻的な建物として理解されてはならない。というのは、それは理想的形式に縮約された或る権力機構の図解だからであって、抵抗や摩擦などのあらゆる障害をまぬがれるその作用は、建築ならびに視覚的効果の純粋な仕組みとして表すことができる。」 (推薦：彦江智弘准教授)

15. CHARLES EAMES 100 QUOTES BY CHARLES EAMES

Eames Office (2007)

ISBN-10 : 0615174213

ISBN-13 : 978-0615174211

「革新は最後の手段である。革新といえば、どんなにひどいことでも許される。」「椅子が進化を遂げたのは、伝統を捨てたからでも、新発見がなされたからでもない。」「革新とは […] 伝統に蓄積された一見関連性のない情報のうち、目立たないが重要なものがほんの少し欠けているというだけで、成功しないことがある。」「家は世話がやけるものであってはならない。」「こわがらずに、歴史はできる限り学ぶべきだ。」「今すぐには何の役にもたたないような出来事やものも尊重するよう教えなければならない。これができないと、人間は次に来る事態を予測することができなくなってしまう。」「これからのデザインでは、デザイナーの顔が見えなくなるといい。」「近年、クリエイティブな活動に適した環境への固定観念が強くなり、創造性を高める刺激となる要素が探し求められている。この固定観念を持つこと自体、特別な問題があることを示している。」 (推薦：樽沼範久准教授)

16. 荒畑寒村『谷中村滅亡史』 (1907)

岩波文庫 (1999/05/17)

ISBN-10 : 4003313739

ISBN-13 : 978-4003313732

「呪ふべきかな黄金万能の時代よ、憎むべきかな資本家政治よ、彼ら今や遂に最後の一撃を、蕞爾たる谷中村の上に加へてこれを倒せり。あゝ谷中村は終に滅亡せり、その鉅毒問題

より転じて、瀧水池問題に至る、実に二十有余年。一身を挺して暴房なる資本家と戦ひ、政府の悪政を弾劾し来れる谷中村は、遂に歴史のものとなり終れり。しかれども政府よ資本家よ、爾らこれを以て能く意を安んじ得る乎、爾らよく肉体を殺し能ふも、その精神を殺し能ふ乎。愚かなるかな、爾が長夜の宴に酔ひしれつゝあるの時、革命の猛火は既に炎々として、爾が眠れる屋上楼下を包めるを知らざる乎、爾は田中正造翁が、七月二日の谷中村破壊の際、『勲章も、サーベルも、早晚必ず起るべき、天地の大転覆とともに、無用の長物となるべし』と、絶叫せるを知らざる乎。[…] 平民の膏血を以て彩られたる、彼らの主権者の冠を破碎せよ。而して復讐の冠を以て、その頭を飾らしめよ。」（推薦：樽沼範久准教授）

17. ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『千のプラトー：資本主義と分裂症』（1980）、上・中・下、宇野邦一・小沢秋広・田中敏彦・豊崎光一・宮林寛・森中高明訳

河出書房新社（上 2010/09/03、中 2010/10/05、下 2010/11/05）

ISBN-10：上 4309463428, 中 4309463436, 下 4309463452

ISBN-13：上 978-4309463421, 中 978-4309463438, 下 978-4309463452

「都市に矛先を向けて反撃するのだ。動いてやまない巨大なスラム街[…]爆発する悲惨、それは町が分泌するもの（…）都市においてさえ平滑的に住むこと、都市の遊牧民となることが出来る（たとえば、クリシーやブルックリンでのヘンリー・ミラーの散歩は平滑空間での遊牧的移動であり、[…] ビートニクはミラーに多くのものを負っているが、彼らは彼らでまた方向を変え、都市外の空間の新しい使用法を作り出すだろう。）もう久しい前にフィッツジェラルドは言っていた。南の海へ出発することが肝腎なのではない、旅を決定するのはそんなことではないと。都市の中の不思議な旅があるだけではなく、その場でできる数々の旅がある。[…] 動かないことによって、移住しないことによって、一つの平滑空間を保持し、そこを立ち退かないことによって、新たにそれを獲得するためか死ぬときしかそこを立ち去らないことによって、彼らは遊牧民となるのだ。」（推薦：樽沼範久准教授）

18. 篠原雅武『空間のために—遍在化するスラム的世界のなかで』

以文社（2011/05/13）

ISBN-10：4753102882

ISBN-13：978-4753102884

「ルフェーブルが『空間の生産』を刊行したのは一九七四年だが、彼が問題にしたのは、国家主導の合理的計算のもと、生活空間が均質的なものとして生産されていくことであった。生活空間の固有性ないしは差異性といったものが一律に均され、味気ない無味乾燥な空間へとつくりかえられ、機能別に分離されていくことをいかに批判し克服するかが主要な課題とされた。[…] 現代において状況は変わった。主要問題はもはや均質化ではない。空間が希

薄になり弛緩していく状況は、均質化のおよばないそこから見放された領域が拡張しつつあることを示していないか。問題なのは、空間を生産していく過程自体があちこちで停滞し、放擲され死滅した空間が増大し、街では、綻びた散漫な感じが蔓延していくということだ。空間の既製品化、合理化、均質化がすすみ、古き良き風景の喪失や非現実的な風景が現れるのを問題化するのでは対応できない、決定的に新しい事態である」。(推薦：樽沼範久准教授)

19. 宮崎駿『風の谷のナウシカ』(1982-1994) 上・下

徳間書店(1996/11/30)

ISBN-10 : 4198699011

ISBN-13 : 978-4198699017

「ユーラシア大陸の西のはずれに発生した産業文明は、数百年のうちに全世界に広まり巨大産業社会を形成するに至った。大地の富をうばいとり大気をけがし、生命体をも意のままに造り変える巨大産業文明は、1000年後に絶頂期に達し、やがて急激な衰退をむかえることになった。『火の7日間』と呼ばれる戦争によって都市群は有毒物質をまき散らして崩壊し、複雑高度化した技術体系は失われ、地表のほとんどは不毛の地と化したのである。その後産業文明は再建されることなく、永いたそがれの時代を人類は生きることになった。かつて栄えた巨大産業文明の群は時の闇の彼方へと姿を消し、地上は有毒の瘴気を発する巨大菌類の森・腐海に覆われていた。人々は腐海周辺に、わずかに残された土地に点在し、それぞれ王国を築き暮らしていた。—風の谷—そこは人口わずか500人、海からの風によってかろうじて腐海の汚染から守られている小王国であった。」(推薦：樽沼範久准教授)

20. レヴィ=ストロース『悲しき熱帯』(1955) I・II、川田順造訳

中公クラシックス(2001/04)

ISBN-10 : I 4121600045

ISBN-13 : I 978-412600042

「人間は、初めにしか本当に偉大なものは創造しなかった。[...]最初の遣り方だけが全き意味において有効なのだ。[...]世界は人間なしに始まったし、人間なしに終わるだろう。

[...]人間の努力—たとえ呪われたものであれ—が普遍的な下降に虚しく逆らうことからほど遠く、人間は、それ自体が一つの機械[...]として立ち現れ、[...]強力に組織されている物質を、絶えず増大していつかは決定的なものとなるであろう無活力へと、追い遣っているのである。人間は、呼吸し、食物を獲得するようになってから、火の発見を経て原子力や熱核反応機関を発明するまで、人間を再生産する場合を除いて、嬉々として無数の構造を分解し、もはや統合の可能性の失せた状態にまで還元してしまう以外、何もしなかった。な

るほど人間は都市を築き、畑を耕したかもしれない。だが考えてみれば、これらのもの自体
[…] 無活力を作り出すべく定められた機械なのである。」（推薦：樽沼範久准教授）

2 1. 小山慶太 漱石とあたたかな科学

文芸春秋（1995/01）

ISBN-10 : 4163497803

ISBN-13 : 978-4163497808

（推薦：深井一夫准教授）

2 2. 森政弘 「非まじめ」のすすめ

講談社（1984/02）

ISBN-10 : 4061831976

ISBN-13 : 978-4061831971

推薦文：わが国を代表するロボット工学の権威で、生物工学的方法とユニークな発想に基づいた研究で優れた成果をあげている（著者紹介欄より引用）著者による本書では、「まじめ」すぎず、もちろん「不まじめ」ではない態度で、ものづくりや研究に向かう姿勢について述べられている。著者が「遊ぶがごとく仕事をする」と述べているように、くそまじめに物事を考えるのではなく、楽しんで仕事（研究）ができればきっと良い成果が上がると思う。もちろん苦しいこともあるが、苦しいことを避けるのではなく苦しいことを楽しむような発想の転換が大切である。本書を読むと、物事を肩肘張らずに柔らかく考える方法について教えられることが多く、通学途中の電車の中でも気軽に読んでもらいたい1冊である。

（推薦：深井一夫准教授）

2 3. 大橋雄二 日本建築構造基準変遷史

（財）日本建築センター（1997/01）

ISBN-10 : 4889100644

ISBN-13 : 978-4889100648

本書は我が国における明治維新からの構造規定変遷の歴史を述べたものである。現行の法規の理解と将来の法規はいかにあるべきかを考える上でよい資料であるにとどまらず、近代日本の社会が歩んだ歴史を建築構造規定という側面から捉えたものとして、広く建築にかかわる立場の人にとって有意な内容となっている。（推薦：田才晃教授）

2 4. 加藤周一 加藤周一著作集 全 24 巻

平凡社（2010/09）

ISBN-10 : 4582365256

ISBN-13 : 978-4582365252

建築を含む芸術から社会、歴史、政治まで幅広く論じた評論家であり、医学博士でもある著者は、知の巨人としてあまりにも有名である。晩年、朝日新聞夕刊に毎月執筆されていた随筆「夕陽妄語」に魅了された方も多かろう。複雑難解な事象も著者の筆にかかると透明な視界として開けてくる。近寄りがたい巨大な知性の根底にあるものは、意外に、ひとりひとりに共通する「大切な何か」かもしれない。（推薦：田才晃教授）

**25. Theodore V. Galambos 鋼構造部材と骨組 - 強度と設計- 福本秀士, 西本文雄
共訳**

丸善 (1970)

鋼構造建物における弾性挙動および弾塑性挙動を部材から骨組まで系統立て理論的に解説している名著である。できれば、原著で読むことがのぞまれるが、訳本でも十分に原著の意図が伝わる。（推薦：田川泰久教授）

**26. Kyuichiro WASHIZU VARIATIONAL METHODS IN ELASTICITY AND PLASTICITY Pergamon
Press**

Elsevier Science Ltd (1968/05)

ISBN-10 : 0080020208

ISBN-13 : 978-0080020204

弾性論および塑性論を変分原理で理論的に解説した名著である。鷺津先生の著書には、この本の縮約版で日本語版もあるが、原著に触れることを推奨する。（推薦：田川泰久教授）

**27. フィリップ・ブードン ル・コルビュジェのペサック集合住宅, 訳：山口知之、杉本
安弘**

鹿島出版会 (1976)

ISBN-10: 4306040690

ISBN-13: 978-4306040694

住宅の単なるつくり方ではなく、住宅とはそもそもどういうものであるべきかについて考えるための名著。1969年の原著を1975年に前川国男が「新建築」誌上で紹介しその後全訳が出版されました。コルビュジェの建設した集合住宅を住み手の側から捉えた異色の一冊。60年代後半は仏・五月革命(1966)をひとつの転機として、近代建築運動に対しても思想の転換が要求された時代。必然的に原則論ではなく現実的な議論が用意されました。本書が都市論としてみると未完成にもみえ、書物というよりは報告書に近いまとめ方がなされてい

るのにはこうした理由があるわけです。原著の序文はアンリ・ルフェーベルによるもの。ルフェーベルはその後 1974 年に「空間の生産」を発表。これをエドワード・ソジャが「第三空間」（1996）として展開。パラダイムの転換点に触れることのできる一冊です。（推薦：藤岡泰寛准教授）

28. 大橋雄二 日本建築構造基準変遷史

日本建築センター出版部

(財) 日本建築センター (1997/01)

ISBN-10 : 4889100644

ISBN-13 : 978-4889100648

「建築技術は地震現象の説明学ではない。現象理法が明でも不明でも、之に対抗するの実技である。」佐野利器先生の言葉のとおり、建築構造工学は自然科学を基盤としながらも、様々な判断や価値観によって成り立っている学問である。この書籍は、その生い立ちを理解する上で貴重な「道しるべ」となってくれる。単体でもなかなか読み応えのあるこの書籍をあえて「道しるべ」と呼ぶのは、引用されている豊富な論文に直に触れて、「道しるべ」を辿る以上に面白い世界に踏み込んで欲しいから。（推薦：松本由香准教授）

29. ジェイン・ジェイコブズ アメリカ大都市の死と生(全訳版)

鹿島出版会 (2010/04/07)

ISBN-10 : 4306072746

ISBN-13 : 978-4306072749

2010 年にはじめて全訳された「都市論のバイブル」。原著の出版は 1961 年。はじめて通読して、ジェイコブズの凄さを実感しました。第一部が観察にもとづく歩道や公園の重要性の認識。第二部がそれらから導き出される 4 つの規範。ここまでが 1977 年黒川紀章訳(SD118)に訳されていた部分です。

しかしそのあとが重要で、第三部が、一部・二部の知見を主に動態的に考察した部分。「脱スラム化」の部分は前向きで緻密でうならせる内容となっています。「多様性の自滅」は冷静な分析に圧倒されます。これで終らず第四部の政策論・計画論では、一部・二部・三部を踏まえて、複雑系(訳では複雑性)の観点から具体的提言を満載しています。

これを 50 年前に「一介のおばさん(訳者解説の言葉)」が書いたとすると私はいったい何すりゃいいの?という思いが湧かなくもないのですが、今を生きる私たちもこういうふうにと都市とかかわらなくちゃね、という力が湧いてくる名著です。（推薦：高見沢実教授）

30. 柴田明德 最新 耐震構造解析

森北出版（1981/01）

ISBN-10：4627520905

ISBN-13：978-4627520905

建築物の動的挙動をまなぶ上では、あまりにも有名な参考図書。初心者にも分かりやすく、なおかつその内容は先端研究を行う上でも十分な情報量を有しているまさに必読の良本です。柴田先生は高齢ながらも精力的に改訂されており、いつも新しい知見が盛り込まれています。英語版もあります。（推薦：楠浩一准教授）

3 1. 大橋雄二 日本建築構造基準変遷史

（財）日本建築センター（1997/01）

ISBN-10：4889100644

ISBN-13：978-4889100648

日本における建築構造に関連する規準の変遷の歴史を、明治時代の市区改正や市街地建築物法から、有名な「柔剛論争」、関東大震災と基準、建築基準法と建築士法の関係などまで、分かりやすく解説されています。特筆すべきは著者の文才の秀逸さで、内容自体はかたいはずなのに、時間を忘れて読んでしまいます。

著者が若くして急逝されたことと、この本が既に絶版で新品では手に入らないことが非常に悔やまれます。（推薦：楠浩一准教授）

3 2. 太田博太郎 岩波ジュニア新書 4 3 奈良の寺々

岩波書店（1982/02/22）

ISBN-10：4006000436

ISBN-13：978-4005000432

本書は現在絶版になっており、古書でしか入手できないのであるが、ぜひ推薦したい。著者は建築史学の泰斗であるが、「専門的な事柄をわかりやすく説明するのが学者のつとめ」と言うのが持論であり、厳格な学風の中にあって若い学徒の育成にもたいへん尽力された方である。そんな著者が中学生や高校生のために書き下ろしたのが本書である。なるほど普通は専門用語が多くて難解な古建築に関する説明が、すんなりと頭に入っていく。それでいて内容は大学の建築史の講義あるいはそれ以上の内容まで網羅している。特に感心するのは、その文章のわかりやすい論旨展開である。私は卒論を指導する際に、文章の下手な学生にたびたび本書の講読を勧めている。学生には劇的な効果が表れる（しかも建築誌の知識も大きく増える）のが常である。ぜひ再版を望みたい一冊である。（推薦：大野敏准教授）

3 3. フライ・オットー他 自然な構造体 岩村和夫＝訳

鹿島出版会 (1986/07)

ISBN-10: 430605201X

ISBN-13: 978-4306052017

(推薦: 河端昌也准教授)

**34. 坪井 善昭/川口 衛/佐々木 睦朗/大崎 純/植木 隆司/竹内 徹/河端 昌也/川口 健一/
金箱 温春 力学・素材・構造デザイン**

建築技術 (2012/01/31)

ISBN-10: 4767701317

ISBN-13: 978-4767701318

(推薦: 河端昌也准教授)

**35. 松村秀一, 佐藤考一, 清家剛, 脇山善夫, 齊藤広子, 中城康彦, 村上心, 新堀学, 角
田誠, 安孫子義彦, 田村誠邦, 中村孝之, 村口峯子 建築再生の進め方ーストック時代の建
築学入門**

市ヶ谷出版社 (2007/11)

ISBN-10: 4870712296

ISBN-13: 978-4870712294

本書は、建築再生の課題と実務上の展開方法を捉えた、この分野で日本最初の実践書・教科書である。

「ないからつくる」から「あるものを使う」時代、つまりストック時代になり、建築学の多くの分野において様々な新しい試みがなされている。本書では、建築再生の実践に必要な各論が解説されているだけでなく、専門分野を横断した総合的な視点の重要性が述べられている。また、日本の制度や法律、産業構造などの既存の枠組みの多くが新築を前提としたものであり、そのために建築再生では様々な課題に直面することが読み取れる。

これから社会で活躍する学生諸君には、既存の社会の枠組みを広げるような仕事を期待している。そのために、是非とも本書を一読してもらいたい。(推薦: 江口亨准教授)

36. 田村 武 連続体力学入門

朝倉書店 (2000/02)

ISBN-10: 4254201028

ISBN-13: 978-4254201024

連続体力学は、固体や流体を巨視的に捉えて連続体とみなし、その運動を解析する力学分野です。本書は主にその数学的基礎を懇切丁寧に解説した最高の入門書です。各章では、偏

微分と重積分、ベクトルとテンソル、連続体の運動と変形、つりあいについて説明しています。「偏微分」、「固有値」、「外積」、「勾配」、「発散定理」を簡潔に説明できますか？通学中の電車の中でも構いません。本書を読めばこれらの意味をきちんと理解して、使いこなせるようになるはずですよ。固体の変形と破壊を取り扱う分野に興味がある人は、併せて W. T. Koiter の General theorems for elastic-plastic solids (Progress in Solid Mechanics, volume 4, 1960.) を読めばよいでしょう。僕は普段から、固体の力学現象について考えるときにこれらを拠り所にしています。(推薦：菊本統准教授)

37. 鈴木隆介 建設技術者のための地形図読図入門 (第1巻～第4巻まで)

古今書院 (第1巻 1997/11, 第2巻 1998/05, 第3巻 2000/05, 第4巻 2012/10)

ISBN-10 : 第1巻 4772250069, 第2巻 4772250077, 第3巻 4772250158, 第4巻 4772252649

ISBN-13 : 第1巻 978-4772250061 第2巻 978-4772250078, 第3巻 978-4772250153,
第4巻 978-4772252645

地形は常時から動いている、そして大惨事に繋がりがねない大変形への警鐘が込められている。2万5千分の1の地形図には動く地盤に関わってきた技術者の営みまでが記されている。わずかな変形のサインを読み取って的確な対応を求められる建設技術者にとって、否、地形の成り立ちに興味を覚えるあらゆる地図好きの人々にとって、全4巻、1322ページにも及ぶ読図例題集は、その事例を渉猟することを厭きさせない。「読図は決して名人芸でなく、誰にでも使える技術である。私なら数秒で第一感を得る。しかし、本当は地形屋としての経験つまり‘約50年+数秒’を要している。」、あとがきに記されたこの50年が私には欠落している。だから現地を歩くときには折に触れこの本を携行する。(推薦：小長井一男教授)

38. 池田俊雄 [新編] 地盤と構造物 地質・土質と鉄道土木 失敗と成功の歴史

鹿島出版会 (1999/01)

ISBN-10 : 4306023311

ISBN-13 : 978-4306023314

アメリカ土木学会にとっても東日本大震災・津波の衝撃は大きかった。そして矢継ぎ早に調査団を送り込んできた。その背景にはニューオーリンズを水没させたハリケーン・カトリナの衝撃があった。永年の地下水のくみ上げで町の八割が水面下にあった街を再建させるべきかが彼らの悩みであった。戦前・戦後の地盤沈下の深刻さは東京も大阪も、そしてあらゆる日本の大都市が抱えていた問題でもあった。その影響をまともに受けた鉄道施設の対応もまた困難を極めた。その苦難の歴史と技術者の苦闘・工夫が成功例・失敗例として記載されている。自然の一部としての地盤への深い著者の洞察がこれらの事例を理解しやすいものと

している。本書に盛り込まれた内容は海外にも大きな教訓を与えるはずである。（推薦：小長井一男教授）

39. 谷口智彦 明日を拓く現代史

ウェッジ (2013/04)

ISBN-10: 4863101082

ISBN-13: 978-4863101081

日本人が必読と言ってもよい、これから生きていく日本人が知っておくべき現代史。本書執筆時点で、内閣審議官。安部首相の外交スピーチの原稿執筆を手掛けている。（推薦：細田暁准教授）

40. 藤井 聡 プラグマティズムの作法

技術評論社 (2012/4/18)

ISBN-10: 4774150231

ISBN-13: 978-4774150239

日本の閉塞状況を打ち破るために必要な考え方が明確にまとめられている。大学で研究を行う学生も、ぜひこの本に書いてあるような考え方で、研究に取り組んでほしい。（推薦：細田暁准教授）

41. 藤井 聡 列島強靱化論

文芸春秋 (2011/05)

ISBN-10 : 4166608096

ISBN : 978-4166608096

未曾有の国家的危機に見舞われた日本。東日本の「ふるさと再生」のために何をすべきか。地震や津波に負けない強くてしなやかな国土をいかに作り上げるか—。復興、防災、から財源、デフレ脱出までの日本版ニューディール。（推薦：勝地弘教授）

42. 土木学会関西支部編 図解 橋の科学（ブルーバックス）

講談社 (2010/3/19)

ISBN-10 : 4062576767

ISBN-13 : 978-4062576765

なぜ形が違うのか?どうやって架けるのか?橋を初めて「科学」にしたガリレオ以来、人が「力」について考え続けた成果が最先端の橋には詰まっている。どう設計し、どう造るのか豊富な図解で完全にわかる！（推薦：勝地弘教授）

4 3. 塩野七生 海の都の物語 1～6

新潮社（第1～3巻 2009/5/28, 第4～6巻 2009/6/27）

ISBN-10：第1巻 4101181322, 第2巻 4101181330, 第3巻 4101181349, 第4巻 4101181357,
第5巻 4101181365, 第6巻 4101181373

ISBN-13：第1巻 978-4101181325, 第2巻 978-4101181332, 第3巻 978-4101181349, 第4巻
978-4101181356, 第5巻 978-4101181363, 第6巻 978-4101181370

ヴェネツィア共和国は、ローマ帝国滅亡後、他国の侵略が絶えないイタリア半島にあって、一千年もの長きにわたり、自由と独立を守り続けた。外交と貿易、そして軍事力を巧みに駆使し、徹底して共同体の利益を追求した稀有なるリアリスト集団はいかにして誕生したのか、ヴェネツィア共和国の壮大な興亡史をまとめた大作である。（推薦：勝地弘教授）

4 4. 松村博 大井川に橋がなかった理由

創元社（2001/12）

ISBN-10：4422201433

ISBN-13：978-4422201436

大井川は江戸時代を通じて橋が無く、川越し人足が旅人を渡した。一般には、軍事上の理由から橋を架けなかったとされているが、橋博士と呼ばれている著者が、写真、図表、史料を用いて、工学的考察によって通説をくつがえしていく。（推薦：勝地弘教授）

4 5. 佐川美加 パリが沈んだ日

白水社（2009/12）

ISBN-10：4560080410

ISBN-13：978-4560080412

地震や津波、噴火の驚異にさらされることのないパリの人々にとって唯一ともいえる自然災害が、セーヌ川の洪水であった。本書はこの洪水をテーマとするユニークなパリ史である。

前半では、河川地理学の立場から、パリの洪水のメカニズムを明らかにしている。パリで洪水の被害を受ける地域は限られている。どの場所で、どうして洪水がおきるのか—これまでに日本で紹介されることのなかった数値データやオリジナル図版とともにその理由をわかりやすく解説する。

後半は二千年にわたるパリの洪水史が紹介される。町として発展し、人間生活優先のインフラストラクチャーが整備されるにしたがって洪水が激化していく様子が史料を交えながら述べられる。最終章では、二十一世紀の洪水対策として、ルーヴル美術館、オルセー美術館の収蔵品救出作戦を紹介している。（推薦：勝地弘教授）

46. 清水英範・布施孝志 再現 江戸の景観

鹿島出版会 (2009/12)

ISBN-10 : 4306094049

ISBN-13 : 978-4306094048

富士山や江戸城の眺めを巧みに取り入れた江戸の風景画は真の江戸の姿だったのか？ 江戸絵図を基礎資料に、当時の都市景観をビジュアルに再現。現代までほとんど明らかにされてこなかった、“江戸の眺め”の実態に迫る。(推薦：勝地弘教授)

47. 中村文彦 バスでまちづくり—都市交通の再生をめざして

学芸出版社 (2006/10/30)

ISBN-10:476152393X

ISBN-13 : 978-4761523930

バスは私たちの暮らしにごく身近で当たり前な存在ですが、その交通機関としての能力は驚くほど高く、まちづくりに大きく活用できる可能性を秘めています。本書は大量輸送機関としてのBRT (Bus Rapid Transit) からコミュニティをきめ細かく回るデマンドバスまで、国内外の豊富な事例を紹介するとともに、それらを福祉政策・環境政策としてどう活用するか、都市政策にどう位置づけるかを幅広く論じています。まちづくりを考える上で交通は不可欠な存在ですが、その中でバスの可能性を考える際の様々な視点を提供するものです。(推薦：中村文彦教授)

48. 蓑原敬、中村文彦他 都市計画：根底から見直し新たな挑戦へ

学芸出版社 (2011/2/1)

ISBN-10:4761525010

ISBN-13 : 978-4761525019

東京都心に高層マンションが次々と完成する一方、地方都市の中心市街地は衰退し郊外にはロードサイド型店舗が無秩序に広がっており、従来の都市計画は時代の変化に対応しきれていないように見えます。本書は21世紀に入り社会面・経済面で大きな転換点を迎えたと言える日本の都市計画・地域計画を根底から見直して新たな都市計画を展望し、その方向性を提案しようとするものです。都市計画に加え交通・福祉等の第一線で活躍する10人の論者が多面的に日本の都市計画を論じており、これからの都市計画を考える上で、避けては通れない重要な論点を提示していると言えます。(推薦：中村文彦教授)

49. トム ヴァンダービルト とんりの車線はなぜスイスイ進むのか？—交通の科学

早川書房 (2008/10/25)

ISBN-10 : 4152089717

ISBN-13 : 978-4152089717

車線変更をした途端に元の車線がスイスイ流れ始める、高級車にはクラクションを鳴らすのをためらう、ショッピングセンターの駐車場でなるべく店に近い駐車場所を求めてさまよう・・・車を運転する人は誰もが持っている経験ですが、本書はこれらの現象を心理学や行動経済学の観点から解き明かし、目から鱗の新たな視点を与えています。事故や渋滞といった多くの交通問題は私たち人間の行動が集積した結果ですが、本書は分かりやすい例を豊富に用いながら、そのことを再認識させてくれます。それと同時に、現実の現象に対する人間の認識の歪みやいい加減さも浮かび上がらせています。交通に関心がなくとも、人間の心理や行動に興味のある人には面白く読める一冊です。(推薦：田中伸治准教授)

50. 三菱総合研究所 ITS 事業部 トコトンやさしい ITS の本

日刊工業新聞社 (2002/01)

ISBN-10 : 4526048518

ISBN-13 : 978-4526048517

事故・渋滞・環境問題を解決するため、情報通信技術を用いて交通を高度化する ITS (Intelligent Transport Systems: 高度交通システム) は、90年代後半から日米欧を中心に研究開発が進められています。本書はカーナビ・ETC に始まり、現在実用化あるいは研究開発がされている ITS 技術やサービスを幅広く解説しており、初学者が概要を理解するのに適した書籍です。索引も充実しているため、カタカナや略語が多い ITS の分野において、耳慣れない言葉を目にした際に辞書的に利用することも可能です。(推薦：田中伸治准教授)

51. 塩野七生 ローマ人の物語 X すべての道はローマに通ず

新潮社 (2001/12/20)

ISBN-10 : 4103096195

ISBN-13 : 978-4103096191

古代ローマのインフラストラクチャーの整備が、道路、橋、水道、医療、教育等の事例を通して描かれている。(推薦：椿龍哉教授)

52. 木本正次 黒部の太陽

信濃毎日新聞社 (1998/06)

ISBN-10 : 4784092161

ISBN-13 : 978-4784092161

黒部ダム建設工事に関連して、北アルプスを貫く関電トンネルの貫通までの様子が破碎帯との取組みを中心に描かれている。（推薦：椿龍哉教授）

5 3. 田村喜子 京都インクライン物語

中公文庫（1994/09）

ISBN-10 : 4122021367

ISBN-13 : 978-4122021365

京都再生を目指して計画された琵琶湖疏水事業について、難工事の様子を田辺朔郎らの行動を中心に描かれている。（推薦：椿龍哉教授）

5 4. 小林一輔 コンクリートの文明誌

岩波書店（2004/10/28）

ISBN-10 : 4000053884

ISBN-13 : 978-4000053884

古代ローマという都市国家とコンクリートの関係を通して、人間社会を支える都市基盤が建築資材の視点からまとめられている。（推薦：椿龍哉教授）

5 5. 新田 次郎 劔岳一点の記

文春文庫（2006/1/10）

ISBN-10 : 4167112345

ISBN-13 : 978-4167112349

2009年に公開された映画「劔岳 点の記」（監督：木村大作，主演：浅野忠信）の原作です。日露戦争直後前人未到といわれた北アルプス立山連峰の劔岳山頂に三角点埋設の至上命令を受けた測量技師・柴崎芳太郎が主人公で、様々な困難を乗り越えて劔岳山頂に挑んだ彼の苦闘の軌跡を描かれています。映画もいいですが、原作をぜひ一読ください。山に登りたくなります。（推薦：早野公敏准教授）

5 6. 河田恵昭 これからの防災・減災がわかる本

岩波書店（2008/8/20）

ISBN-10 : 4005006035

ISBN-13 : 978-4005006038

いつどこで災害にあってしまうか、誰にもわかりません。本書はこのような災害に対し、災害に遭ったとしても命と財産を守れる減災社会に変えてゆくにはどうすればよいか書かれた1冊です。（推薦：鈴木崇之准教授）

57. 吉村昭 三陸海岸大津波

文藝春秋 (2004/3/12)

ISBN-10 : 4167169401

ISBN-13 : 978-4167169404

三陸地方はこれまでも明治, 昭和と大津波に襲われています。大津波はどのようにやってきたのか, 生死を分けたのは何だったのか, 体験者の証言も多々含まれた書です。(推薦: 鈴木崇之准教授)

58. 柴山知也・茅根創編集 図説日本の海岸

朝倉書店 (2013/5/23)

ISBN-10 : 4254160658

ISBN-13 : 978-4254160659

日本国内には多くの海岸があり, その様子は様々です。本書は日本の40の海岸を紹介したもので写真を中心にその概説が示された1冊です。(推薦: 鈴木崇之准教授)

59. 服部昌太郎 海岸工学

コロナ社 (1987/08)

ISBN-10 : 4339050520

ISBN-13 : 978-433905052

本書は, 波の理論, 波の変形, 波圧, 長周期波, 波浪統計, 海浜過程, 海岸侵食などをキーワードとして書かれている。海岸工学の入門書であり, 全体像をとらえられる1冊です(推薦: 鈴木崇之准教授)

60. 合田良實 耐波工学—港湾・海岸構造物の耐波設計—

鹿島出版会 (2008/06)

ISBN-10 : 4306023990

ISBN-13 : 978-4306023994

本書は, 「港湾構造物の耐波設計波浪工学への序説」のリニューアル版であり, 近年の研究成果を取り入れられている。内容は, 港湾の設計にとどまらず, 平均水位の上昇量と沿岸流速の算定公式, 海浜変形の予測とその制御に関してなども記載されている。実務においても利用できる1冊です。(推薦: 鈴木崇之准教授)

61. ジェラード・デランティ (山之内靖+伊藤茂訳) (Gerard Delanty) コミュニティー

グローバル化と社会理論の変容 (Community)

N T T 出版 (2006/03/28)

ISBN-10 : 4757141211

ISBN-13 : 978-4757141216

「コミュニティ」という概念は社会学に限らず、さまざまな分野で用いられる概念である。しかし、その定義は曖昧で感覚的なものであり、かつ無条件で「よきもの」として語られることも多い（特に今日の日本では特に）。本書は、実は厄介な概念である「コミュニティ」を、社会学、歴史学、政治哲学、文化人類学などの学際的アプローチから読み解いていく。構成的な概念としての「コミュニティ」と「場所」の関係など、都市イノベーション学府のどの領域の院生にとっても示唆が多いはず。（推薦：小ヶ谷千穂准教授）

6 2 . Cynthia Enloe Bananas, Beaches and Bases: Making Feminist Sense of International Politics

University of California Press (2001/01/08)

ISBN-10 : 0520229126

ISBN-13 : 978-0520229129

「the personal is global; the global is gendered（個人的なことはグローバルであり、グローバルなことはジェンダー化されている）」——「the personal is political（個人的なことは政治的である）」とするフェミニズムの視点を、国際関係論において鋭くかつ軽妙に展開した、「国際関係とジェンダー」分野の古典。

多国籍企業の世界展開、ナショナリズム、軍隊、基地、国際機関、こうした「国際的」あるいは「グローバル」とされる事象がどのようにジェンダー化された構造に規定されており、そこで世界の女性と男性の生活がどのように影響されているのかが、歴史的視点を踏まえて考察される。大文字の「国際関係」「国際政治」「国際経済」と「個人の生活」のリンクを鮮やかに描いた必読書。（推薦：小ヶ谷千穂准教授）

6 3 . サスキア・サッセン（田淵太一・原田太津男・尹春志訳）(Saskia Sassen)

グローバル空間の政治経済学：都市・移民・情報化 (Globalization and Its Discontents)

岩波書店 (2004/12/15)

ISBN-10 : 4000226134

ISBN-13 : 978-4000226134

社会学やポリティカルエコノミーにおけるグローバリゼーション論の重要な論者であるサスキア・サッセンの論文集。特に本書では、彼女の研究の出発点でもある移民女性労働や、

第三世界の女性労働、そして国家と人の移動の関係などが中心的に議論されている。第4章「グローバル経済のフェミニスト分析に向けて」は、「国際移動とジェンダー」というテーマを論じる上で重要な論点が包括的に取り扱われており、筆者の視野の広さが確認できる。(推薦：小ヶ谷千穂准教授)

64. クラウディオ・マグリス オーストリア文学とハプスブルク神話

書肆風の薔薇 (1990/08)

ISBN-10 : 4891762373

ISBN-13 : 978-4891762377

「文学」というタイトルがついているからと言って、「文学の話なのね」と思い込むなかれ。オーストリア文学を通じて、オーストリアとは何か、あるいはオーストリアを中心に中央ヨーロッパに長年にわたって君臨したハプスブルク家の姿を追ったもの。つまり単なる文学史などではなく、社会史、政治史、文化史等としても十分に読み応えのある一冊となっている。著者のマグリスは一応「文学研究者」という肩書だけれど、ヨーロッパの知識世界にはそんなちっぽけな肩書に縛られない巨視的な視座を持った人が現れる。そのことを皆さんに読みとてもらおうのが、この本を勧める一番の理由だ。(推薦：小宮正安准教授)

65. HABITAT Global Report on Human Settlements 2009 PLANNING Sustainable Cities

Routledge (2009/10/05)

ISBN-10 : 184407899X

ISBN-13 : 978-1844078998

HABITAT が隔年で出版している報告書の2009年版で、プランニング(空間計画/都市計画)の特集号です。開発途上国のプランニングを中心に論じられています。

21世紀のプランニングに何が必要かという全体論から、プランニング制度、組織論、参加論などの各論まで体系的に論じています。先進国のプランニングでは通常考察されない、プランニングとインフォーマル性や、日本語のプランニングの教科書ではほとんど語られていない、計画のモニタリングやプランニング教育などの章もあり、プランニングを学ぶ人にとっては新しい視点を与えてくれます。

英語でも日本語でも、開発途上国のプランニングについて体系立てて論じている書籍はほとんど存在しませんので、そういった意味でも貴重な本です。英語ですので、日本人の学生さんには少々ハードルは高いのですが、読む価値はあります。また、紙媒体で購入も出来ませんが、HABITATのウェブページから無料でpdf版がダウンロードもできます。(推薦：松行美帆子准教授)

66. Mike Davis (酒井隆史・篠原雅武・丸山里美訳) Planet of Slums 『スラムの惑星：都市貧困のグローバル化』

明石書店 (2010/05/20)

ISBN-10 : 4750331902

ISBN-13 : 978-4750331904

都市全体がスラム化し、スラムに飲み込まれそうになっているというショッキングな内容による始まる本書は、そのセンセーショナルな内容により出版当時に賛否両論を巻き起こしたものです。例えば、今まで肯定的にとらえられてきたことの多いターナーのセルフ・ヘルプ思想を痛烈に批判し、一般的に良いものととらえられてきた NGO の参加や「望ましい統治」といったスラム改良政策をいっそうのスラム化に荷担していると論じています。この本で語られていることをそのまま肯定することは出来ませんが、一般的に良いと言われていることを疑うことを余りしたことのない学生さんが多い昨今、多くの刺激を受ける本多と思います。

なお、スラム政策に関しての基礎知識を持ってから読んだ萌芽より理解が深まりますので、併せて Global Report on Human Settlements 2009 The Challenge of Slums を読むことをお勧めします。(推薦：松行美帆子准教授)

67. 湯浅誠 反貧困 「すべり台社会」からの脱出

岩波書店 (2008/04/22)

ISBN-10 : 4004311241

ISBN-13 : 978-4004311249

今さら推薦する必要もないほど売れた、年越し派遣村で有名になった湯浅さんの本です。以前、タイ人の友人が日本に来た際、「どうして日本は豊かな国なのに、こんなにホームレスが多いのか？」と聞かれたことがあります。ホームレスがほとんどいない(職業として物乞いをしている人はいますが)タイから来た彼には、駅や公園に多くのホームレスが住んでいることが不思議でたまらなかつたようです。

なぜ、なぜこれほどまでに豊かな国でこれほどまでに貧困に苦しむ人がいるのか、日本の社会が十分なセーフティネットを提供できないのか、非常にシンプルな疑問ですが、意外とその疑問に答えられる人は、大学院生でも多くはないのではないのでしょうか。都市や地域をフィールドとして研究をする大学院生であれば、このシンプルな疑問に立ち向かうためにも一読をお勧めする本です。(推薦：松行美帆子准教授)

68. 与那覇潤 中国化する日本——日中「文明の衝突」一千年史

文藝春秋 (2011/11/19)

ISBN-10 : 4163746900

ISBN-13 : 978-4163746906

世の中の通念では、西洋の産業革命で「近代」が始まったとされているが、そのはるか前の宋代（10 世紀）に、中国は産業革命の一手手前まで来ていたと言われる。この現代グローバル世界の原型とでも言うべき「チャイナ・スタンダード」を本書では「中国化」と呼んでいる。当時の後進地域だったヨーロッパはこれを「グローバル・スタンダード」として受容し、内部変革を経て近代化を遂げていくが、一方の日本は中国化とは全く別の流れである閉じた社会の「江戸化」を選択し、その後「中国化」と「再江戸時代化」をくり返して、現在また「中国化」しつつあるというのが著者の見方である。ちなみに、中国でも「江戸化」の時期があり、その代表が毛沢東時代の中国である、というのはおもしろい。「中国化」は、今の「新自由主義」に似て、よく言えば徹底的な競争社会、悪く言うと弱肉強食の格差社会で、猛烈な権力の「一極化」や富の偏在が起きる。また個人に「私的な利益を追求する自由」や「政府に無関心でいる自由」のみを認めるのも中国化である。だから筆者は「中国化」を「江戸化」と対比して賛美しているのではない。むしろ主眼は、たとえ理想としての「西洋化」がどれほど美しいものであったとしても、それとはまったく別の原理で動いてきた日本や中国は、「中国化」が内包するこれらの問題を可視化し、東アジアのグローバル化の行方を議論していこう、というところにある。

本書は著者の大学での講義をもとに会話体で書き下ろしたものだ。教養図書としても日本史の専門書としても、いろいろ読みができる目から鱗の刺激的な一冊である。（推薦：白水紀子教授）

69. ドロシー・コウ 纏足の靴——小さな足の文化史

平凡社（2005/11）

ISBN-10 : 4582472303

ISBN-13 : 978-4582472301

中国の野蛮さの象徴とみなす従来の纏足研究に対して、儒教社会における女性文化の問題として新しい視角を示しえた点で注目される1冊。纏足は、まだ骨が軟らかい幼女のころに足の親指以外の指を裏側に折り曲げ、足の甲骨を脱臼させて作るもので、10世紀ころ宮廷の踊り子の小足をめでた貴族の個人的なフェティシズムから始まり、1949年の中華人民共和国成立まで1000年ものあいだ中国人男性の性的欲望を駆り立ててきた。纏足に付与されるイメージも歴史とともに変化し、異民族の統治下にあった清の時代においては漢民族の文化的象徴として称揚され、女性にとっては容姿以上に重要な女性美の象徴となっていく。しかし清末になると纏足は中国の野蛮な風習とみなされ「国粹から国恥」へ大きく変わる。著者は、纏足批判を展開した当時の中国知識人に、纏足を異教徒の野蛮な風習として蔑む西洋

のまなざし、つまりオリエンタリズムが投影されていると指摘し、その後のステレオタイプ化された纏足のイメージに異論を唱えている。本書は異文化接触・交流のありかたを考えるうえでも興味深い1冊である。(推薦：白水紀子教授)

70. カイヨワ, ロジェ (秋枝茂夫訳) 戦争論—われわれの内にひそむ女神ペローナ

法政大学出版局、新装版 (2013/08/09)

ISBN-10 : 4588022717

ISBN-13 : 978-4588022715

本書は、時代を経るなかで戦争がどのように変化してきたのかを歴史的に理解することができる良書である。特に、「文明の状態」(8頁)、つまり階級制や民主主義といった社会制度や政治制度、貴族の馬術や歩兵の重火器といった戦争技術が、戦争の変化に密接に関係していることを論じている。そのなかでも、民主主義と徴兵制や民主主義と戦争に関する議論は、民主主義を非暴力的な制度だと考えている読者にとっては驚く箇所であろう。どうして人々は争うのか、どうして国家は戦争するのかに関心のある方は是非一読してほしい(追記：推薦文執筆後に、「新装版」が出版されたことを知った。手にする機会も増えるだろうから、是非読んでみてほしい)。(推薦：鎌原勇太講師)

71. R. ヴェンチャーリ 建築の多様性と対立性

鹿島出版会 (1982/01)

ISBN-10 : 4306051749

ISBN-13 : 978-4306051744

モダニズム運動という明示され合理的な精神で造られる建築は権力にとって便利な道具にもなる。ということを明らかにし、権力が操作できない文化領域としての建築を評価しようとする。絶えず歴史の中に生々する文化抗争なのだが、現代的意味は重要である。(推薦：北山恒教授)

72. J. ジェイコブス 都市の原理

鹿島出版会 (2011/03)

ISBN-10 : 4306052575

ISBN-13 : 978-4306052574

IUI 初代研究院長を務められた梅本洋一さんが IUI 設立趣旨文にこの本の内容を引用されていた。現在、私たちが都市を語るときの原点になる本である。(推薦：北山恒教授)

73. JW・ベンヤミン パサージュ論

岩波書店 (2003/06/14)

ISBN-10 : 4006001010

ISBN-13 : 978-4006001018

都市というものは社会現象そのものである。19世紀資本主義社会が登場し商品というものの意味が変容する。人間が経験する都市は空間でありまた物の集積でもある。(推薦：北山恒教授)

74. 陣内秀信 東京の空間人類学

筑摩書房 (1992/11)

ISBN-10 : 4480080252

ISBN-13 : 978-4480080257

人は時間と空間のなかに拘束されている。東京という空間の拡がりを過去から続くレイヤーの重なりとして見ていく。現代は過去からの継続で存在し未来も必ず現在と接続する。(推薦：北山恒教授)

75. 広井良典 定常型社会

岩波書店 (2001/06/20)

ISBN-10 : 4004307333

ISBN-13 : 978-4004307334

20世紀後半の社会を支配した社会原理は資本主義である。資本主義とは人々の欲望を契機とするため無限の成長拡大を要求する。その社会原理の中では人は幸せにはなれないことがわかったようである。では、新しいその社会原理とは。(推薦：北山恒教授)

76. 塚原史 20世紀思想を読み解く

筑摩書房 (2011/11/09)

ISBN-10 : 4480094148

ISBN-13 : 978-4480094148

20世紀初頭、ヨーロッパで起こった文化そして思想の大きな切断面は現代の私たちの世界を規定している。ダダ(無意味)という表現運動をトレースしながらこの切断面を照射していく。(推薦：北山恒教授)

77. レム・コールハース 錯乱のニューヨークみ解く

筑摩書房 (1999/12)

ISBN-10 : 4480085262

ISBN-13 : 978-4480085269

現代都市について何かを語ろうとする人にとっての必読書。(推薦：小嶋一浩教授)

78. 原広司 YET HIROSHI HARA

TOYO出版 (2009/12/25)

ISBN-10 : 44887063075

ISBN-13 : 978-487063075

建築家の構想力の飛距離を体感できる一冊。原広司のアンビルド=YET のプロジェクトだけで編集された作品集。「言葉を鍛えよ」という教えの実践。(推薦：小嶋一浩教授)

79. バーナード・ルドルフスキー 建築家なしの建築

鹿島出版会 (1984/1/25)

ISBN-10 : 4306051846

ISBN-13 : 978-4306051843

近代直前までの世界の豊かさ(様々な巧妙なフィクション)の拡がりを見せてくれる本。(オリジナルはニューヨーク近代美術館での写真展のカタログブックなので、できれば洋書を手すべき)(推薦：小嶋一浩教授)

80. フェルナン・ピヨン 粗い石

文和書房 (1973)

ル・トロネ修道院というロマネスクの名建築を舞台とする、建築家が獄中で書いた小説。(推薦：小嶋一浩教授)

81. 都市デザイン研究体 日本の都市空間

彰国社 (1968/03)

ISBN-10 : 4395000509

ISBN-13 : 978-4395000500

フィジカルな空間としての都市を捉える手ほどの書。(推薦：小嶋一浩教授)

82. Le Corbusier Oeuvre Complète (Complete Works)

Birkhäuser (1974)

コルビュジェの全貌に迫る必読の書。(推薦：西沢立衛教授)

8 3. The Le Corbusier Archive

GARLAND (1991)

コルビュジェの全貌に迫る必読の書。(推薦：西沢立衛教授)

8 4. レム・コールハース、ハンス・ウルリッヒ・オブリスト プロジェクト・ジャパン

平凡社 (2012/02/25)

ISBN-10 : 458254438 X

ISBN-13 : 978-4582544381

建築アヴァンギャルド運動であるメタボリズムが、単なる空想で終わらず多くの実験的に建築の実践がある。なぜそのような大胆な提案が可能だったのか。その背景には建築に留まらない社会全体の運動体があり、その総体は一つのプロジェクトとして捉えることができるのではないかという本書のねらいそのものは非常にロマンチックであるが、同時に未発表の多量の資料やインタビューによって多面的にドキュメントされた名著である。(推薦：藤原徹平准教授)

8 5. 塚本由晴、西沢大良 現代住宅研究

INAXo (2004/02/01)

ISBN-10 : 4872751175

ISBN-13 : 978-4872751178

日本人ほど戸建住宅が好きな民族はなく、当然ながら日本の建築家は住宅をつくることで建築の思想を育んできた。歴史的な名作住宅をかつてない精緻な価値観から観察し、その意味を多面的にあぶりだす本書は、建築家にとってよきガイドラインになるというだけでなく、もっと広く「観察すること」や「観察から考察すること」を学ぶ良い機会になるはずである。

(推薦：藤原徹平准教授)

8 6. 貝島桃代、黒田潤三、塚本由晴 メイド・イン・トーキョーINAXo (2004/02/01)

鹿島出版会 (2001/08)

ISBN-10 : 4306044211

ISBN-13 : 978-4306044210

『メイド・イン・トーキョー』以前、日本の都市なんてどれもダメだ、B級だというように言われていた。パリやヴェネツィアやニューヨークに比べて、あまりにも雑然としているし、パチンコやコンビニが入り混じる風景は目を見て見ぬふりをするしかないという状況だった。しかし本書は、B級の可能性を一気に反転してしまった。むしろ東京の都市状況こそが創造性に溢れ、都市の住人と建築がつくりだす、未来に向けた可能性の塊であるというこ

とにしてしまった。さて我々は『メイド・イン・トーキョー』を古典として捉えれば良いのか、現代の書と捉えれば良いのか果たしてどちらなのだろうか。(推薦：藤原徹平准教授)

87. 井上充夫 建築美論の歩み

鹿島出版会 (1991/04/20)

ISBN-10 : 4306042782

ISBN-13 : 978-4306042780

有史以来建築は芸術と工学の狭間で、揺らぎ続けてきた。建築は単体で良し悪しを簡単に議論できるものではなく、社会の価値観や思想が色濃く反映されているのだから、建築の歴史の中での揺らぎは、人間の文化や価値観の揺らぎと言ってよい。建築理論を「美学」の観点から通史的に貫通する本書は、哲学史や美学史と連動して建築を捉えていくことを可能とする素晴らしい補助線である。卒業以来最も繰り返し読んだ本かもしれない。(推薦：藤原徹平准教授)

88. 松浦寿輝 エッフェル塔試論

筑摩書房 (2000/02)

ISBN-10 : 4480085416

ISBN-13 : 978-4480085412

本書は、エッフェル塔を巡る表象の物語でもあり、エッフェルという歴史上最も著名な土木技師についての物語でもあり、建築と土木とをまたがる近代の物語でもある。図版が大変に美しいので、できれば文庫版ではなく新刊版を古本屋で探して手にとってほしい。(推薦：藤原徹平准教授)

89. ギー・ドウポール スペクタクルの社会

筑摩書房 (2003/01)

ISBN-10 : 4480087354

ISBN-13 : 978-4480087355

スペクタクルの社会を読むと、痛快な気持ちになる。徹底的に高度資本主義社会の構造を否定しているが、それは経済の観点からではなく人間の観点からの批判である。本書が描かれた当時の批判精神が現在でも有効であるという事実に、高度資本主義社会のシステムの強大さをおおいに知ることになるし、あるいは批判精神ということが時間の中で純度を保ち得るということがどういうことなのかを考える良いきっかけになるかもしれない。

いずれにせよ、社会や都市に向き合っていくのであれば、避けては通れない書である。

(推薦：藤原徹平准教授)

90. エイモリー・B. ロビンス スモール・イズ・プロフィタブル—分散型エネルギーが生む新しい利益

省エネルギーセンター (2005/05)

ISBN-10 : 487973294 X

ISBN-13 : 978-4879732941

1972年のローマ会議で「成長の限界」が報告されて以後、我々は限られたエネルギーをどのようにマネジメントするかという世界にいる。エイモリーロビンス博士によれば日本の省エネ技術単体は大変にすぐれているのだが、一人当たり平均で考えると結局カリフォルニア州なみに電力を使っているという。つまり技術革新があっても、社会システム全体への波及が無い。社会システムが古いのか、技術革新が足りないのか、あるいはもっと発想の転換が必要なのか。まだまだ考えなければならないことは多い。(推薦：藤原徹平准教授)

以上